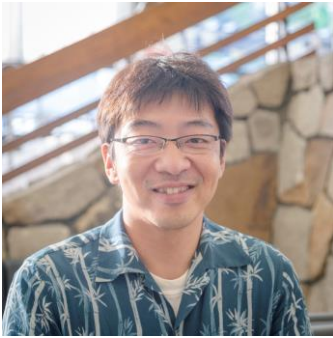


ありかど しょうたろう

有門 正太郎 俳優・演出家・劇作家

1975年生まれ北九州市出身。倉本聰主宰「富良野塾」、泊篤志代表「飛ぶ劇場」を経て、2005年「有門正太郎プレゼンツ」を始動。「笑顔になれば何でも出来る」を合い言葉に作、演出、出演も務め全国でワークショップやアウトリーチ活動も行っている。俳優としては様々な全国ツアー公演等に参加。高校演劇専科での講師経験を活かし、北九州芸術劇場「日韓合同キャンプ ～チャレンジ！ えんげき～」の総合演出等も務める。

俳優としての主な出演作品は、富良野塾公演『今日、悲別で』『走る』（作・演出：倉本聰）、北九州芸術劇場 プロデュース『錦鯉』（作・演出：土田英生）、『江戸の青空』（作：千葉雅子、演出：G2）、演劇・時空の旅シリーズ『シラノ・ド・ベルジュラック』（演出：永山智行）など。2016年、佐藤佐吉賞優秀主演男優賞受賞。（一財）地域創造リージョナルシアター登録派遣アーティスト。

左：2020年、ハレルワークショップ
「めぐるあるくストーリーと」
（岡山芸術創造劇場ハレノワブレ事業）

右：2016年、地域創造リージョナルシアター事業
文化フォーラム春日井／春日井市民会館
（愛知県春日井市）



すみ

角 ひろみ 劇作家・演出家

兵庫県出身 宝塚北高校演劇科卒業。

1995年「芝居屋坂道ストア」を旗揚げし、関西を中心に東京公演などもしつつ活動。2005年同劇団解散、2006年より岡山在住。

音楽劇のふたりユニット「本日ロードショー」メンバー。宝塚北高校演劇科 戯曲講師。各地でWS講師・審査員も務める。東京・関西・岡山など各地のカンパニーに戯曲を書き下ろして活動。

リズムカルで詩的且つ自然な会話体で、ある時はシニカルに、ある時はユーモラスに、日常と生の不条理を描く。主に方言を多く使う。日常と非日常が隣り合ったマジックリアリズム的作劇。

1999年「あくびと風の威力」で第4回劇作家協会新人戯曲賞佳作、
北海道知事賞受賞

2007年「螢の光」で第4回近松門左衛門賞 受賞

2014年「狭い家の鴨と蛇」で第20回劇作家協会新人戯曲賞 受賞

2014年「囁谷シルバー男声合唱団」で第59回岸田國士戯曲賞 最終候補

2015年 第16回岡山芸術文化賞準グランプリ 受賞



高校生戯曲講座の様子

2022年「ハイスクールmeet Text」（岡山芸術創造劇場ハレノワブレ事業・岡山県高等学校演劇協議会連携事業）



Photo by Junpei Iwamoto

おおたに いく

大谷 燮 NPO法人DANCE BOX代表、神戸アートビレッジセンター館長

大阪府生まれ。東京の大学に進んだが中退して舞踏修行を積み、1974年、山形県鶴岡市で「北方舞踏派」の結成に参加(「北方舞踏派」は、その後北海道 小樽に移転)。1979年まで舞踏家として活躍。

1991年から2001年まで、大阪、千日前のTORII HALLプロデューサーとして、舞踏を中心としたダンスの公演を企画制作。1996年、大阪でDANCE BOXを立ち上げ、ジャンルを超えたコンテンポラリーダンスの公演・ワークショップを企画制作。2002年、DANCE BOXをNPO法人化。大阪・新世界フェスティバルゲート内に大阪市との公設置民営の劇場<Art Theater dB>を開設し、アーティストの育成と地域社会とアートの新しい環境づくりに力を注ぐ。

2009年より神戸・新長田に拠点を移し、小劇場 <ArtTheater dB KOBE>を運営。公演事業のみならず、「国内ダンス留学@神戸」をはじめ、若手アーティストの育成、子どもの豊かな感性を育てるプログラム、国内外のアーティスト・イン・レジデンス事業、地域と連携した事業を展開。ダンスの持つ力を通して、多様な人が共生する社会に向けて新たなビジョンを切り拓くアートプログラムを行っている。

2017年より神戸アートビレッジセンター館長

2017年度 文化庁長官表彰

2019年度 芸術選奨文部科学大臣賞(芸術振興部門)受賞

また、振付家としてもゆるやかに活動。岡山では、2018年天神山文化プラザ 天神山迷図「みえない物語」に、千日前青空ダンス倶楽部の振付家として参加した。



Photo by Junpei Iwamoto

「下町芸術祭2017」ダンスプログラム (企画：NPO法人DANCE BOX)

インドネシアのアーティスト ジェコ・シオンボが、国内ダンス留学@神戸の6期生や多くの地域住民と共に、商店街各所でパフォーマンスをおこなった。